

ハンガリー、豪から、最新美術事情を視察に来日

ハンガリー最大の現代美術館館長 ベンチク氏 南オーストラリア州立美術館 アジア担当学芸員ベネット氏

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、毎年各国から文化の専門家を招へいしています。

日本国内の最新美術事情を視察し、各国とのネットワークを築くため以下の2名が来日し、国内の美術館などを視察します。「文化人招へいプログラム」とは、海外において文化の各分野で活躍する優れた文化人を日本に招へいし、日本の文化と社会を体験していただくプログラムです。関係者との意見交換を行い、総合的な日本理解と日本と海外とのネットワークづくりを進めています。

バルナバーシュ・ベンチク（ハンガリー） / Barnabas BENCSIK



ルードヴィグ現代美術館館長

■招へい期間 | 2010年10月12日（火）～10月26日（火） 15日間

■略歴 | ベンチク氏が館長を務めるルードヴィグ美術館（Ludwig Museum）はハンガリー最大の現代美術コレクションを有しており、ハンガリー、中東欧を初めとする世界の現代美術を紹介し、年間を通して意欲的な企画展を実施している。また、同氏はACAX（Agency for Contemporary Art Exchange）という芸術家の国際交流を促進する団体の代表も務めており、ハンガリー現代美術界において、多大な影響力を持っている。

■主な訪問・視察先 | 東京 / 北九州・福岡 / 京都 / 直島 / 愛知
京都市芸術大学、女子美術大学における東欧の現代美術を紹介する講演、日本の主な現代美術館等訪問、キュレーターとの意見交換などを予定。

ジェームズ・スティーブンソン・ベネット（オーストラリア）／ James Stevenson BENNETT



南オーストラリア州立美術館 アジア担当学芸員

■招へい期間 | 2010年11月5日（金）～11月18日（木） 14日間

■略歴 | アジアの染織や工芸が専門で、2003年から現職。2003年以前はオーストラリア北部準州美術館で東南アジアを担当。テキスタイルデザイナーや舞台芸術家の経歴も。仏教・密教の世界や金工・染織等の伝統工芸について強い関心を持っている。2009年には日本美術をテーマにした展覧会を実施。今後、日本を含めたアジア全体の伝統工芸等に関する大規模な展覧会を計画している。これまで、日本美術の展覧会「The Golden Journey: Japanese Art from Australian Collections」の他、イスラム美術を扱った「Crescent Moon: Islamic art & Civilisation in Southeast Asia」など、多数の展覧会を企画。専門はインドネシア美術。

■主な訪問・視察先 | 長崎 / 佐賀 / 福岡 / 神戸 / 大阪 / 東京 等

長崎歴史文化博物館、佐賀県立九州陶磁文化館、九州国立博物館、神戸市立博物館、国立民族学博物館、東京国立博物館などを予定（訪問予定順）。11月18日、国際交流基金本部（新宿区四谷）にて「日本美術と南オーストラリア州立美術館の収蔵作品」をテーマにした講演会を開催予定。

「文化人招へいプログラム」とは・・・

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）では、海外において各分野を代表する優れた文化人を日本に招へいし、日本の文化と社会を体験していただくとともに、関係者との意見交換を行ない、日本理解と人的ネットワークづくりを促進しています。

これまでの文化人招へい一覧は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jpf.go.jp/j/culture/human/invitation/index.html>

お問い合わせ 国際交流基金 文化事業部 生活文化チーム 電話：03-5369-6060 FAX：03-5369-6036

【オーストラリア ベネット氏】担当：山出 有紀子 E-mail：Yukiko_Yamade@jpf.go.jp

【ハンガリー ベンチュク氏】担当：長島 弥生 E-mail：Yayoi_Nagashima@jpf.go.jp